



かがやく浜の子

平成30年度 9月号

平成30年度重点目標 気づき 考え 行動する子 「自分から みんなで」

郷土を愛し 未来をつくる子

御前崎市白羽（旧白羽村新神子）に生まれ、昭和から平成にかけて御活躍なされた俳優、加藤剛（かとうごう）さんが、今年6月になくなりました。お別れの会が9月22日に東京で開かれます。「加藤剛さん」といって真っ先に思い出すのは、私が小学生の頃から見えていた毎週月曜夜8時放映の『大岡越前』です。人情味溢れる江戸町奉行役を演じる加藤さんを、子どもながらに「かっこいい」と思っていました。その他にも、大河ドラマ「風と雲と虹と（1976年）」、映画『舟を編む（2009年）』『沈まぬ太陽（2018年）』など、テレビ、映画、舞台に長年にわたって幅広く活躍されましたので、そのお姿は、各年代の方々の記憶に残っていることでしょう。2001年には紫綬褒章、2008年には旭日小授章を受けられた郷土が誇る名優です。

＊

加藤さんは、2008年、主演された『伊能忠敬 子午線の夢』の小中学生向け上演会が、御前崎で行われる機会に合わせ、母校である白羽小学校を訪問されています。その際、本校の子どもたちへ「夢と歩む」と記した色紙とともに「やりたいことがあれば、一步一步、歩いて行くことが大切です。」と声をかけてくださいました。そして、後日には「？十年ぶりに懐かしの母校にかえり、親愛なる『後輩』さんたちに囲まれて楽しいひとときでした。」というお手紙もくださいました。色紙とお手紙は、今も玄関に飾ってあります。



玄関にある写真



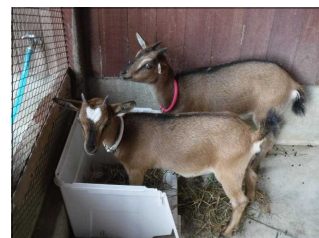
また、2006年、新聞社のインタビューに「実家から500mの御前崎海岸の砂浜が遊び場で、駿河湾から向こうに見える富士山の美しさや、砂浜で食べたスイカの味は忘れられない、ここまで続けられたのも御前崎で培った風土や人情のおかげと感謝しています」と語っていた郷土に関わる記事を見つけました。

＊

御前崎市がめざす子どもの姿は「郷土を愛し未来をつくる子」です。先述の加藤さんの色紙に書かれた言葉からは、「高い志や夢をもって未来に向かう意思」を、手紙やインタビューの受け答えからは、「郷土への愛」を感じ取ることができます。「郷土を愛し未来をつくる人」をまさに体現なさっていた方なのではないのでしょうか。

＊

1学期には、クラブ活動やはばたき学習、社会科見学、海洋体験など、子どもたちが地域に出かけて学んだり、地域の方から指導を受けたりする機会を多く持つことができました。全校児童293人と教職員29人と2匹（4年1組がはばたき学習で飼い始めたヤギ「小雪と小梅」です）で始まった2学期には、シニアスクールの皆さんとの授業での交流も始まりました。白羽そして御前崎の自然、産業、人など様々なかかわり合いが、子どもたちに加藤さんがお持ちになっていたような「未来への志」「郷土への愛」を育む一つの機会となればと思います。2学期もどうぞよろしくお願いします。

シニアスクール
（郷土の食材を使った料理）

小雪と小梅

（文責 校長；石谷）